

TRIZ マインドカードによる創造的思考の実践 ～ あらゆるところに TRIZ のエッセンスを ～

花岡 幸枝 (株式会社ウィズダム)

山畳 秀人 (ドコモ・システムズ株式会社)

概要

企業での社員教育、個人の悩み事解決、または公私共に起こりうる問題ごとへの対策と解決において、マインド分野からの視点で、理想と現実との間に心の矛盾が生じることがわかった。創造的思考を補助する TRIZ 技法が技術面での矛盾解決にも役立っていることを知り、これをマインド面からの心の矛盾解決に役立つのではないかと思ひ立ち、言葉遊び的な感覚から 40 の発明原理を応用したマインドカードを作成することとした。創造的作業、創造的発想を促す発明原理は、思考の固定観念を崩す効果と共に、イメージへの広がりが見られ、さまざまな分野で活用することができた。

1. 背景

人間心理面の問題解決をテーマにした、企業研修や、カウンセリングにおいて、従来の心理学的なツールを利用してきたが、発想を広げるためのツールとしては不十分であった。そこで、技術分野で利用されている TRIZ の発明原理を人間心理面でも応用できるツールにできないか、検討を進めることとなった。

2. TRIZ マインドカードの製作

TRIZ の発明原理を、人間心理面で活用できるよう、一般用語に変換することとした。用語の変換にあたっては、TRIZ コンサルタントの方々の意見を参考にしながら、発明原理からははずれすぎない範囲で一般化を試みた。

最初は、40 の文字だけのカードであったが、イメージがふくらみにくいとの意見が多く、親しみやすいイメージを加えたカードにし、ゲーム的な要素を入れるために、トランプ形式に変えていった。

トランプ形式にするために、残り 12 枚のカードをどのようなカードにするか検討した結果、心理矛盾を表現するカードにすることとした。

結果的に、12 の心理矛盾を解決する TRIZ マインドカードとなり、このカードだけで研修ツールとして扱える内容にすることができた。



3. 思考フレームワークの適用

12 の心理矛盾からテーマにしたいカードを選び、40 の発明原理から解決のためのカードを選ぶ、といった単純ワークで発想は広がるが、9 画面法や、一般的なカウンセリングシートなどの思考フレームワークツールを併用することで、より効果的な問題解決につながっていくことがわかってきた。

- 問題のテーマに合わせて思考フレームを選択
- テーマに該当する心理矛盾を設定
- 思考フレームのステップ毎にカードを選択
- カードのイメージから解決方法を発想する

従来の思考フレームワークだけでは、固定観念や個人の意思に左右されがちだが、TRIZ マインドカードを利用することで、発想を広げることができるようになった。

4. 多様な利用シーン

企業や個人を対象にしたモニター研修を通して、TRIZ マインドカードの有効性を検証していった結果、下記分野での適用が可能であることがわかった。

- 企業におけるヒューマンエラー研修ツール
- 個人に対するカウンセリングツール
- 観光型イベントのコミュニケーションツール

心理矛盾のカード部分を、目的に応じたカードに変更することで、人間心理以外の分野でも適用可能であり、さらなる利用シーンの広がりを目指していく予定である。